生命を生みだす母親は
生命を育て 生命を守る
ことをのぞみます

母親しんぶん

ニュース版
No.11
2026.11.1

日本母親大会連絡会　東京都千代田区二番町12-1　全国教育文化会館内（〒102-0084）
電話03（3230）1836　fax03（3230）1837　ホームページhttp://hahaoyataikai.ai.jp

各地母親大会開かれる

「子供たちに平和を手渡そう！そのための行動を広げていこう」

第７１回 高知県母親大会

思いを語り･学び、ダンスも楽しく、目からうろこの講演で充実の1日！



7月26日(日)第71回高知県母親大会を男女共同参画センター「ソーレ」で開催し、午前の8つの分科会と午後の全体会に、のべ316人が参加しました。

分科会には次のような感想が寄せられました。①親子でつくろうふわふわモンスター（羊毛フエルトの感触に癒やされ大満足）②デジタル教育（科学的データをもとに教育効果について県・国上げて検証し見直して欲しい）③障がい児・者（保護者の声を行政に届ける場所があると聞いて母親大会に来たというお話に母親大会の大切さを改めて実感した）④憲法９条と自衛隊（憲法９条改悪のシナリオが分かったので家族友人と一緒に勉強して９条を守る）⑤ジェンダーカフェ（チラシを見てパートナーとジェンダーカフェに参加しみんなと話ができて良かった）⑥医療はどこへ（OTC類似薬の違いが分かったこんな国のやり方では安心して子どもを産み育てられない）⑦いくつになっても自分らしくいきいきさわやかに（食事や運動・外でのおしゃべりも大切、そのためには年金を増やしてもらわないと健康な生活はできない）⑧もっと知りたい土佐文旦（はじめて文旦シロップを使って料理の幅が広がった）など、楽しくつくり語り学び合いました。

午後の全体会は基調報告と土佐市母親大会の映画「ご飯」上映の取り組みの報告があり、文化行事「MIXED COLORS」のダンスパフォーマンスは「スカッとするダンスを短時間でも一緒に踊れてうれしかった」と参加者から大好評でした。アルテイシアさんの講演「平和な未来はジェンダー平等な社会から」は皇室の話、性教育のバックラッシュ、家父長制など具体的な例を挙げて分かりやすく「目からうろこの内容、自分も日本もジェンダー平等からは遅れている、ジェンダー平等が実現したらみんなが幸せになる」など、たくさんの感想を頂きました。最後に「戦争を阻止するため憲法改悪に反対する」特別決議と大会アピールが大きな拍手で採択されました。各分科会で出された申し合わせ事項を、知事部局と県教育委員会との交渉に向けて準備・学習し、みなさんの願いを実現するために取り組みます。

（高知県母親大会実行委員会）

第 70 回香川県母親大会

母親大会のすばらしい歴史と運動を知る

自分たちも声を上げて行きたい



8 月２日、第 70 回香川県母親大会を、香川県社会福祉総合センターで開催。のべ 374 名が参加しました。

午前中は分科会を行いました。「子どもをまん中に、大人も子どもも楽しもう」「みんなで考えよう！子どもが行きたくなる学校って！？」「くらし・労働・社会保障」「今、日本の食が危ない！～日本の食の自立と平和～」「改憲は戦争への道　今こそ平和憲法を！」「誰もが人間らしく生きられるジェンダー平等の社会を！」「今こそ響け平和のうたごえ、憲法 9 条を守ろう！」のテーマで７分科会を行いました。どの会場も熱い討論が行われ、よりよい社会を目指そうとする姿勢が申し合わせ事項に繋がっていました。

午後は、土佐町議会議員でもある教育研究者の「鈴木大裕」さんを講師に迎え、「教育のいまを問う～子どもたちが行きたくなる学校とは～」のテーマで講演して頂きました。子どもの教育を通して社会のあり方を考えていく必要性や、日本社会の中で、もっと教育の優先順位を上げなければならないこと、崩壊しつつある日本の公教育も、まだ希望はあることなど、ユーモアを交えて分かりやすく話していただきました。やはり、子どものために社会を変えていくことが大事なことを改めて考えさせられました。

その後、各分科会の報告の後、大会アピールを採択し、大会を終えました。

第 70 回香川県母親大会は、2027 年の第 72 回日本母親大会開催を論議していく中で、新しい実行委員会参加団体を増やし 28 団体での取り組みとなりました。また、休眠中の団体にも、母親大会のすばらしい歴史と運動を知らすことで、再び運動に参加してくれる団体もありました。そのこともあって、今年の香川県母親大会は、今まで参加していなかった方も参加し、盛り上がりました。講師の鈴木さんも、「香川県母親大会は若い方の参加が多いですね。」と喜んでくださいました。

参加者からは、「鈴木大裕さんの話を聞き、10 年後の日本の公教育もアメリカと同じように格差が広がっていくのかと子どもたちの未来が心配になりました。子どもたちが様々な幸せの形を見つけ、それぞれの自己実現を叶えていける社会を作るために運動している人たちがいることを知り、自分たちも声を上げて行きたいと勇気をもらえました。」「母親大会が歴代の方々よりずっと引き継がれていることの素晴らしさと、今までの取り組みと今後の取り組みがわかり、この大会に参加でき、有意義な経験をしたのだと感じました。」との声をいただきました。

（香川県母親大会連絡会　高松信子　溝渕千恵美）

第 65 回富山県母親大会

「子供たちに平和を手渡そう！そのための行動を広げていこう」とアピールを採択

第 65 回富山県母親大会が 9 月 6 日、富山県男女共生センター（サンフォルテ）で開催されました。午前中は 4 つの分科会を開催し、総勢 160 人余の参加で話し合いました。第 1 分科会「安全な水と自然を守りたい」では、私たちの生活用水、農業用水を担っている庄川の水源地に産廃処分場建設はダメだと、研究者、市民の会からの報告をもとに話し合い、建設をやめさせる運動につなげようと話し合いました。第 2 分科会「『黒三ダム』を知っていますか？」では、戦前の隠れた歴史、植民地・朝鮮人労働者が差別されながらのダム建設を知りました。「外国人労働者なくては日本社会が回らない」のに外国人を傷つけている現代の排外主義は植民地主義と同じではないか？差別のない社会の大切さを学びあいました。第 3 分科会は「南砺市に学ぶ『子どもの権利条例』では、こどもが育ちたいまちづくりから生まれた『条例』はこどもも大人もともに幸せに暮らせるまちを目指して、４つの権利（生きる権利）（育つ権利）（守られる権利）（参加する権利）のユニークなキャラクターを生かして進め、広められてきたことを学びました。第４分科会「らく楽体操『フェルデンクライスメソッドを体験しよう』では、リラックスして床に寝転んで楽に体を動かす方法を学びました。災害時の避難所、限られたスペースでも利

用できるゆっくり、息を止めない、小さく動くなどの動きも体験できました。それぞれの分科会が充実していたと報告されました。



午後の全体会では150人余が参加して、例年は講師を招いての記念講演ですが、話題の映画アイスランドのジェンダー平等の姿を描いた「女性の休日」を鑑賞しました。

映画は、１９７５年、アイスランドの女性たちが一斉に職場や家庭をボイコットした歴史的な一日を写真や短い映像、アニメを駆使したドキュメンタリー。ユーモアと笑顔で社会に変革をもたらした女性たちの姿に勇気をもらえました。「世界一ジェンダー指数の高い国も、最初からだったわけではなく、あらゆる場で、あらゆる時の活動の成果がその一日に集約されたわけなので、わたしたちも声をあげたり、行動したりしていかなければという思いを強くしました！」「初の女性大統領誕生もすごいと思いました。同じ女性のトップでも、女性の権利を考えてくれない首相では困ります！」などの感想がありました。

各団体からの報告では、新婦人から「戦争とめる！憲法守る！」と高市首相の退陣を求めて、国会前行動と呼応したペンライト行動が富山駅前だけでなく県内に広がり、デモカレンダーをみた若い人、新しい参加が広がっていると報告され、みなさんも出かけよう！と訴えられました。庄川産廃施設に反対する市民の会からは、水源地に産廃施設を作ることの危険性と取り組みの状況を訴えられ、イタイイタイ病を経験する県民として、作らせない行動を起こしていこうと訴えられました。最後に民医連グループから、一人一人に寄り添う看護を願っていても十分に対応できないジレンマを抱えながら働いている現状から、社会保障の充実と同時に患者さんへのケアの在り方が問われると訴えられました。通院患者としてできることを考え、備える必要があると思いました。

そうして、「大軍拡より暮らしを守れ！」の声をあげ、平和や暮らし、社会保障、ジェンダー平等、気候危機など様々な問題に力を合わせて取り組み、「子どもたちに平和を手渡そう！そのための行動を広げていこう」とアピールを採択して閉会しました

（第65回富山県母親大会事務局　原田清美）

第７１回熊本母親大会

行動し声上げる大切さを学ぶ



第71回熊本母親大会を2026年９月23日、開催しました。会場は、くまもと森都心プラザにて、全体会・分科会のリアル開催で、県内各地から470名の参加でした。今大会は男性の参加も多く、運動の広がりを感じました。７月に熊本地震があり、開催も危ぶまれましたが、会場の使用もでき、被災地からも多くの参加があり、たいへん勇気づけられました。

１日通してチャリティーバザーや障害者の絵画展カクノスキ展や原爆写真展を会場ロビーで行い、どのブースも賑わっていました。

分科会では、「ひとつになろう熊本の平和運動」をテーマとし、県内で活動している３団体と高校生平和大使の学生を交えたシンポジウムを行い、会場からの意見も活発で、参加者に勇気と元気をもらいました。「親子であそぼう」では、沢山の家族が参加し、童歌や遊びを通して、親子のふれあいが育まれていました。「私の健康と社会保障」では、社会保障について学んだ後、分科会で初めての取り組みとして健康チェックや相談（健康・介護）コーナーを設け、体験型の分科会となりました。「食料品消費税1%で暮らしはどうなる？」では、いのちと暮らしを守る運動で声を上げる重要性を学び、「うたおう笑顔

で」では、皆で歌ってストレスを発散し、今後の運動に英気を養えました。5 分科会は多数の参加者で、活発な発言や意見交流で盛会でした。

午後の全体会は、オープニングをコーラスひだまりのコーラスで飾り、「今日の運動」は 17 団体が発言し、県内各団体の取り組みから多くの課題もみえ、発言の最後には、会場全員でフライヤーを掲げ、「平和が一番、憲法かえるな！」のシュプレヒコールで盛り上がりました。記念講演は、念願の法政大学名誉教授の田中優子さんの「平和って、だれの問題～今、私たちにできること～」題し、子どもたちのいのちを守ることが平和の道と、私たちができることが見え、行動し声上げる大切さを学んだ講演でした。（熊本母親大会実行委員会　渡邉美紗子）

第 68 回千葉県母親大会

参加者がこれからの行動に

繋がる元気をもらえた一日



第 68 回千葉県母親大会（第 51 回千葉市母親大会共催）が 10 月 3 日（土）に千葉市民会館で開催されました。

「共に生きる」をテーマに午前の文化行事として千葉朝鮮初中級学校のみなさんの歌と踊り、大熊啓さんの「私たちには歌がある～心をつなぎ、人々を励ます歌の力」と題した歌とトーク、午後の講演は安田菜津紀さんの「共に生きるとは何か～難民の声　家族の歴史から考えた多様性」という内容でしたが、648 人の参加で成功裏に終わることができました。

３つの企画が「共に生きる」というテーマに貫かれた内容で素晴らしかったとの声が多く寄せられました。実行委員会ではプレ企画で県内唯一の朝鮮学校を訪問して歴史を学び交流を持ちました。大会当日は朝鮮学校の歴史や現状を初めて知り胸が痛む、子どもたちの踊りや歌が素晴らしかったと感想が寄せられました。大熊さんの歌は歴史や人権をめぐるお話を交えながら歌が連帯の力になることを実感させてくれました。安田さんの講演はガザや日本国内での外国人へのヘイトをリアルな写真を通して伝え、「知って、知ったら知らせて」と結ばれました。発言のひろばでは県内各地での問題と千葉の大雨被害による農民連の訴えがありました。来てよかった、来年も参加したいと、母親大会に集まった参加者がこれからの行動に繋がる元気をもらえた一日となりました。　（千葉市母連　夏目富代子）

第６８回福島県

第 31 回いわせ・須賀川母親大会

戦争のない世界をめざして職場、地域でつながり一歩一歩前へ



１０月１１日　須賀川しんきん文化センターを会場に第６８回福島県・第 31 回いわせ・須賀川母親大会が開かれ、全県から約 300 人が参加しました。宮城県原水協常任理事で被爆 2 世でもある小林立雄さんを迎え「核兵器も戦争もない世界をめざして」と題して記念講演を行いました。日本被団協が 2024 年ノーベル平和賞を受賞した際のドキュメンタリー映像と解説、若い世代へ平和の大切さを伝え繋いでいく活動、原爆技術が原発に応用されてきたこと、世界の状況と非同盟国の拡大について学び、ひとり一人が行動することが大事だということを学びました。「兵器を持っているから安全ではない。兵器を持っているから戦争になるのではないか」の言葉に共感の声が多く寄せられました。

運動の交流では、会津若松市母連から昨年の県大会後の活動について、南相馬母連からは震災と原発事故 15 年が過ぎても困難が続いていることや原発ゼロの日の行動の様子について、福島市母連からは 3・8 国際女性デーに「日本版女性の休日プロジェクト」に取り組んだ様子が報告されました。

私たちを取り巻く状況は困難を増していますが、ひとり一人が声を上げる「ペンライト集会」のような自主的な新しい波が起こっていることに希望を持ち、母親大会のスローガンのもと安心して暮らせる核兵器のない世界、戦争のない世界をめざして職場、地域でつながり一歩一歩前へ進めましょうと結んだ大会宣言、福島県への決議 10 項目、日本への決議 20 項目を採択しました。「青い空は」の参加者全員での歌声と来年いわきで開かれる県大会報告で締めくくりました。

（福島県母親連絡会　佐々木賀代子）